

岩槻区コミュニティバスの運行ルート変更について

2. 運行ルート変更案

① 運行ルート変更の目的

○本丸・宮町地区における住民から、高齢化が進み、移動の足に課題が生じていることから運行ルート変更の要望があった。
 ○R5年3月の地域公共交通協議会において、既存路線の運行改善は必要に応じてできるものとする事が決定している。
 ⇒当該地区に存在する交通空白地区の解消とともに、利用者の利便性向上を図るため、運行ルート変更を検討する。

② 運行ルートの変更内容

運行ルートの変更案

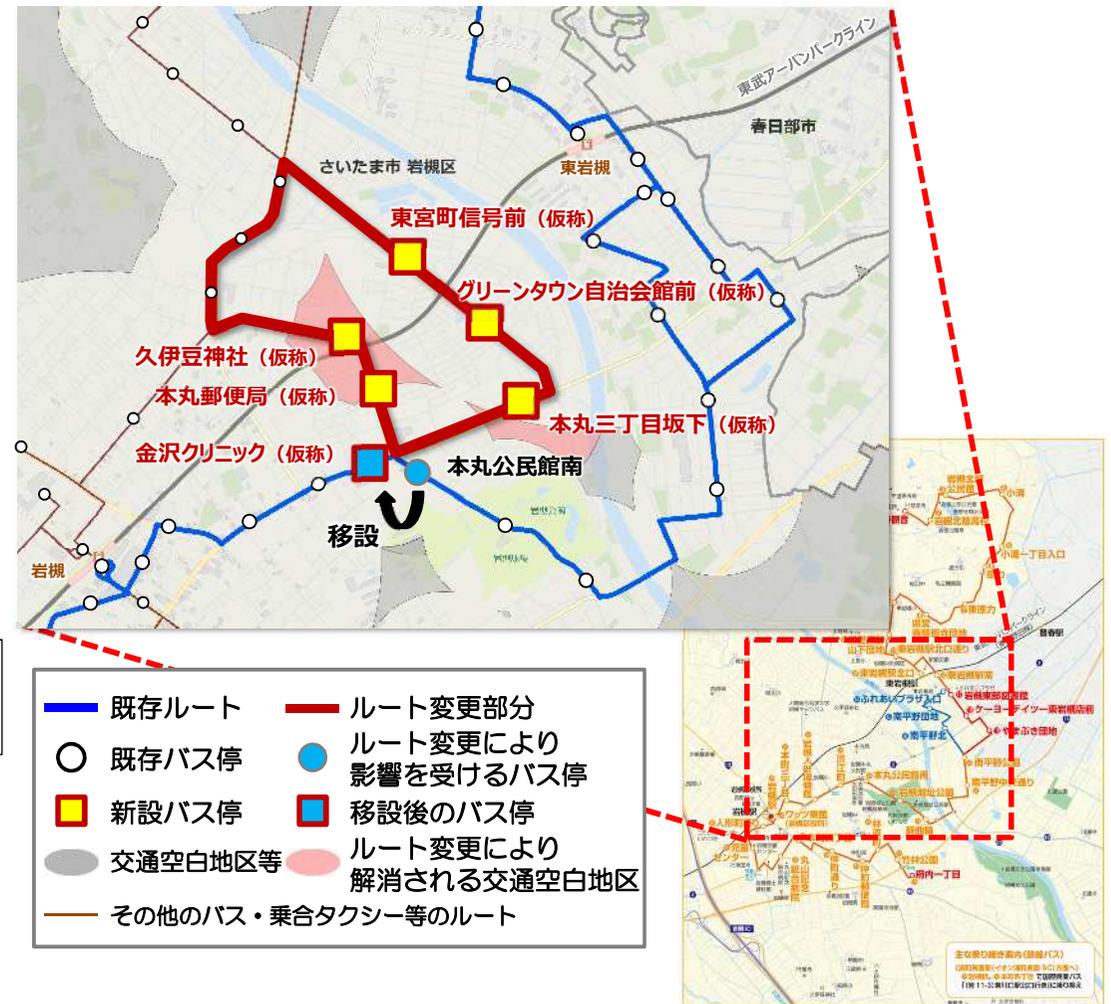
現状	運行区間	慈恩寺観音⇄東岩槻駅北口⇄岩槻城址公園⇄岩槻駅⇄丸山記念総合病院⇄府内一丁目
	運行距離	運行距離13.1km～13.2km（運行時間50分）
	運行頻度	12便/日（毎時同分にバス停に停まるラウンドダイヤ）
ルート変更案	変更箇所	<ul style="list-style-type: none"> バス停の追加（「東宮町信号前（仮称）」「グリーンタウン自治会館前（仮称）」「本丸三丁目坂下（仮称）」「本丸郵便局（仮称）」「久伊豆神社（仮称）」） バス停位置の変更（「本丸公民館南」から移設し「金沢クリニック（仮称）」に変更）
	運行区間	慈恩寺観音⇄東岩槻駅北口⇄岩槻城址公園⇄岩槻駅⇄久伊豆神社（仮称）⇄丸山記念総合病院⇄府内一丁目
	運行距離	運行距離約16km（運行時間75分）
	運行頻度	7便/日（毎時同分ではないダイヤ）

地域組織の概要

- ・ルート変更に向けた地域組織が設立されている。
- ・沿線自治会の会長等で構成されており、地域住民と連携し、検討を進めるために必要な要件を満たしている。

申請年月	令和5年4月
構成員	沿線自治会の会長ほか
沿線の自治会	宮町自治会、東宮町自治会、太田自治会、新曲輪自治会、本丸第1自治会、本丸第2自治会、本丸第3自治会、ひがし野自治会、大栄住宅自治会、グリーンタウン自治会、グレースタウン自治会（計11自治会）

運行ルート案



岩槻区コミュニティバスの運行ルート変更について

3. 収支率の試算

(1) 利用人数の増減の試算

- ・ 需要調査結果をもとに、「①変更後の利用者の増加見込み」を算出
- ・ 乗降調査結果をもとに、「②減便による利用者の減少見込み」を算出
- ・ ①と②より、変更後の利用者は+156人/日増加する見込みとなった。

1) 変更後の利用者の増加見込み

項目	試算結果	算出方法
①現在の利用人数[人/日]	17.1	アンケートで「現在利用している」と回答した方の総利用人数
②変更後の利用人数[人/日]	62.8	アンケートで変更後のバスを「利用する」と回答した方の総利用予定人数
③変更後の利用人数の増分[人/日]	45.7	③ = ② - ①
④人口拡大後の利用人数の増分[人/日]	4093.8	④ = ③ × R6.1.1時点15歳以上沿線人口[36,011] ÷ 有効回答数[402人]
⑤補正後の利用人数の増分[人/日]	273.7	⑤ = ④ × 乗合タクシー6地区 ^{※1} の利用人数の補正率の平均値[6.7%]

2) 変更後の利用者の減少見込み

項目	試算結果	算出方法
⑥現在の利用人数[人/日]	281.9	H30年度利用実績
⑦減便分の利用割合[%]	41.7	⑦ = 減便する便数[5便] ÷ 現在の便数[12便] × 100
⑧ルート変更後の利用人数[人/日]	164.4	⑧ = ① × (1 - ⑦)
⑨利用人数の減分[人/日]	117.4	⑨ = ⑧ - ⑥

3) 変更後の利用者数の増減

変更後の利用者数の増減[+156.3回/日]
 = 増加見込み[273.7人/日] - 減少見込み[117.4人/日]

(2) 運賃収入・運行経費・収支率の試算結果

- ・ 試算結果、変更後は年間で運賃収入が677万円増加、運行経費が81万円減少、収支率が23.5ポイント増加する試算となった。
- ・ 変更後の収支率は63.0%であり、変更運行移行の要件である前年度以上を満たしている。

1) 変更後の運賃収入・運行経費・収支率の試算

項目	試算結果	算出方法
①運賃収入[万円/年]	1,897	○総利用人数[106,463人/年] = (R5年度1日当たり利用人数[人/日] ^{※2} + 変更後の利用者数の増加人数 156.3[人/日]) × 運行日数見込み[243日/年]
②運行経費[万円/年]	3,013	○運賃収入 = R5年度平均運賃[178円/回] × 総利用人数 ○R5年度実績値に走行距離、便数の変化を考慮して、人件費や燃料油脂費等の経費を試算
③収支率[%]	63.0	③ = ① ÷ ② × 100

2) 現在と変更後の運賃収入・運行経費・収支率の比較

	運賃収入 [万円/年]	運行経費 [万円/年]	収支率 [%]
現状(R5年度)	1221	3,095	39.4%
変更後	1897	3,013	63.0%
差(変更後-現状)	677	-81	+23.5ポイント

3. まとめと提案

- ・ 需要調査にもとづく収支率試算結果は63%と、ガイドラインに示す変更運行実施の基準である「収支率が前年度以上」（+約24%）を満たしている。
- ・ 道路の運行要件、関係機関との調整等のガイドラインのチェックポイントも確認済みである。
- 「ステップ3実証運行の準備」に進みたい。

※表内に示す数値表記は四捨五入した値であり、小数点以下を含み算定している。そのため、合計値と個々の計算値は必ずしも一致しない。

※需要調査は、令和6年7/2～23の期間に、コミュニティバスの運行ルート（案）沿線300m地域に居住する15歳以上の方々（無作為抽出・郵送）1,500人を対象に実施し、402人から回答が得られ、回収率は27%であった。

※1 コロナ禍前に需要調査・利用実績を検証した5地区及びコロナ禍に需要調査・利用実績を検証した1地区の計6地区の数値を利用

※2 岩槻区コミュニティバスのR5年度の実績に基づく